

国際ソーシャルワーク研究の可能性

ーイスラム教ソーシャルワーク活動とソーシャルワーク教育カリキュラムの国際比較研究ー

○ 淑徳大学 松尾加奈（会員番号002671）

キーワード：イスラム教とソーシャルワーク、国際ソーシャルワーク、インディジナス

1. 研究目的

ヨーロッパ諸国や米国から伝播されたソーシャルワーク専門職教育(Schools of Social Work)が、対象国に与えたインパクトとイスラム教の宗教組織によるソーシャルワーク活動（社会活動）との異同を分析することにある。

2014年7月に「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」が採択されて以降、「ソーシャルワークは専門職(practice-based profession)」との概念が世界中に拡散している。

信者・宗教指導者たちは自らの実践をソーシャルワークとする人もいれば、宗教上の活動であるとする人もいる。

ソーシャルワークが「信者・宗教指導者たちは専門職でないから彼らの行いはソーシャルワークではない」と言えるか？ソーシャルワークは専門職によって独占されるものだろうか？

研究の視点

- 社会的に脆弱な立場にいる人々（貧困者・孤児・障がい者・女性・自然災害被災者など）を支援するためにイスラム教徒や宗教団体が実施している活動データを収集する
- ヨーロッパ諸国・米国から伝播したソーシャルワーク専門職教育においてイスラム教はどのように教えられているのか。ソーシャルワーク教育のカリキュラムを収集する。

2. 研究方法

- アジアにおけるイスラム教徒が人口の大多数を占める国（バングラデシュ、インドネシア、マレーシア、パキスタン）を調査対象とし、現地研究協力者*¹により各国のイスラム教徒や宗教施設で実施しているソーシャルワーク活動のヒアリング調査*²を実施した。
- 現地研究協力者には代表者が設計した調査ガイドラインを配布した。

*¹ 現地研究協力者

- バングラデシュ Isahaque Ali, PhD
- インドネシア Adi Fahrudin, PhD
- マレーシア Mohd. Haizzan Yahaya, PhD
- パキスタン Muhammed Jafar, PhD

*² インタビュー対象

社会的に脆弱な立場にいる人々への支援を実施するイスラム教徒NGO、ソーシャルワーク教育校

調査対象国	インタビュー対象(団体数)
バングラデシュ	モスク(1) ソーシャルワーク教育校(3)
インドネシア	モスク(1) ソーシャルワーク教育校(1)
マレーシア	NGO(3: 薬物依存症者へのリハビリテーションNGO、HIV/AIDS 陽性の子ども達を支援するイスラム教徒、ムスリム系NGOが経営する養護施設) ソーシャルワーク教育校(1)
パキスタン	モスク(1) NGO(2: 自然災害被災者支援、教育支援、地域開発) ソーシャルワーク教育校(1)

3. 倫理的配慮

- 全ての研究は、日本社会福祉学会の倫理指針を遵守して実施した。日本社会福祉学会の研究倫理規程に基づき、インタビューを実施した機関については事前に研究の概要を説明した上で協力の同意を得た。また発表者と現地協力者とは異なる地域・文化・宗教であることを十分配慮し研究を遂行した。なお、本研究において個人への利益及び不利益並びに危険性が生じないと考える。
- 本発表においては日本社会福祉学会の「研究倫理規程」及び「研究倫理規程にもとづく研究ガイドライン」に基づき、個人が特定できないように、また、研究対象者の個人情報保護等に充分配慮しながら作成した。

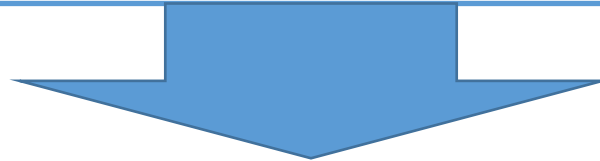
4. 研究結果(1)

- イスラム教とソーシャルワークについて以下4項目が抽出された。
 - ① **教義**（「イスラム教義にある「愛・支え合い・慈善」に基づくものでありソーシャルワークと見做されても否定されても構わない」イマームA氏）
 - ② **不十分な政府及び公共のサービスの補完機能**（各国政府の予算では社会ニーズに対応できないが、宗教基盤のNGOは国内外の人材・資金・ネットワークを活用することができる。国の制度施策・公共サービスの補完的機能を持つ。）
 - ③ **教材の欠如**（【課題1】欧米諸国から伝播したソーシャルワーク専門職教育は理論的な枠組みとモデルが蓄積されている。対象国の教員自身が宗教（イスラム教）を教えることに不慣れであり、宗教を信じていない、宗教から離れている。）

4. 研究結果(2)

- ④ 「インディジナスなソーシャルワーク」の再検討（【課題2】
indigenousは日本の福祉教育では「土地・民族固有の」と訳しており、世界的にもthe First Nation(土地土着の人々・民族)と捉えているが、ソーシャルワーク伝播以前からもともと存在している宗教・地域性に拠った「助け合い」「支えあい」など利他的活動全般として理解すべきである)

宗教者・信徒（非ソーシャルワーク専門職者）により提供される社会活動（ソーシャルワークのような活動）が、ソーシャルワーク専門職により提供される活動よりも量・範囲ともに大きい。



非ソーシャルワーク専門職者による社会活動の情報収集は、対象国におけるソーシャルワーク教育教材開発につながる

5. 考察

- イスラム教宗教者によるソーシャルワーク活動も欧米にルーツのあるソーシャルワーク活動と同じように、教義に基づく利他的行動が出発点になっていることがわかった。これはユダヤ教、キリスト教と同じようにイスラム教も共通しており、超越的絶対者である神への信仰の発露としての活動であることで同じ様相である。
- 調査対象国において専門職ソーシャルワークではなく宗教者に対し、悩み解決への相談や仲裁、支援を求めるのは、宗教者への信頼が根底にあり、また介入支援できる場が提供されていることが要因として挙げられる。これらの国で専門職ソーシャルワークが活動できるための場の整備には、公共サービスの整備や教育の充実化など解決すべきハードルが多い。
- 「ソーシャルワークは専門職」→福祉制度が整備されている国においては職業としての社会的認知度と地位を確保することは重要。しかしそれでは調査対象国のように社会資源が十分とはいえない国々の社会的に脆弱な立場の人々の支援にはソーシャルワークが対応できない。
- これはソーシャルワーク専門職への否定ではなく、ソーシャルワークの捉え直しであり対話を始めることを意味している。

5. 考察(2)

- 日本での国際社会福祉研究は、国内の福祉法制度や社会福祉サービスに基づく特定の分野について、国際比較研究、海外にルーツのある人々への文化多様性に配慮した福祉サービスの議論、途上国支援に焦点を当てる傾向にある。さらに残念なことに、国際ソーシャルワークに関する議論は長年不活発なままであり、海外の議論の流れに追いついていない。
- 本研究では、ソーシャルワークのインディジナイゼーションが、対象国のソーシャルワーク教育を豊かにし、ソーシャルワーク専門職養成に貢献している一方で、宗教者が実践している活動（インディジナスなソーシャルワーク）もまた社会に大きな貢献をしていることから、この活動をインディジナス・ソーシャルワークとして捉え直す重要性が浮き彫りになった。
- ソーシャルワーク専門職教育において従来のような先住民へのソーシャルワークとインディジナスを歪曲化せず、自国の助け合い活動、ソーシャルワーク（のような利他行動）をインディジナス・ソーシャルワークと位置づけ世界のソーシャルワークと対等に議論すること。これが国際ソーシャルワーク研究の新しい可能性である。

参考文献

- 日本ソーシャルワーク教育学校連盟. (2019). 「2017年度一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟会員校における国際福祉教育に関するアンケート調査」報告書. Retrieved from Tokyo, Japan: http://jaswe.jp/doc/2017_kokusaifukusikyoku_houkokusyo.pdf (2020/8/8 最終確認)
- *Internationalization & Indigenization of Social Work Education in Asia*. (2014). Social Work Research Institute Asian Center for Welfare in Society (ACWeIS), Japan College of Social Work. Retrieved from Tokyo: <http://id.nii.ac.jp/1137/00000206/>
- *Internationalization of Social Work Education in Asia*. (2013). In Matsuo, K & Akimoto, T. (Eds.): Social Work Research Institute Asian Center for Welfare in Society (ACWeIS), Japan College of Social Work. Retrieved from Tokyo: <http://id.nii.ac.jp/1137/00000235/>
- *Islamic Social Work Practice: Experiences of Muslim Activities in Asia* (978-4-905491-08-8). (2016). Asian Center of Social Work Research (ACSWR) Hasegawa Research Institute for Buddhist Culture, Shukutoku University/ Social Work Research Institute Asian Center for Welfare in Society (ACWeIS), Japan College of Social Work. Retrieved from Tokyo: <http://id.nii.ac.jp/1137/00000408/>
- 岩木秀樹. (2017). イスラームにおける弱者救済の福祉制度. ソシオロジカ, 41(1・2), 65-79.
- 高尾賢一郎. (2011). ムスリム社会における社会貢献: 現代シリアのアブー・ヌールの事例. 宗教と社会貢献, 1(2), 1-21.

謝辞:

本研究は日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（挑戦的研究（萌芽）2017-2019年度の助成を受け実施されたものである。
(JP17K18586)